

3 現時点の状況

(1) 現在避難している先の自治体

問3 あなたが現在避難されている先の市町村を教えてください。(具体的に)

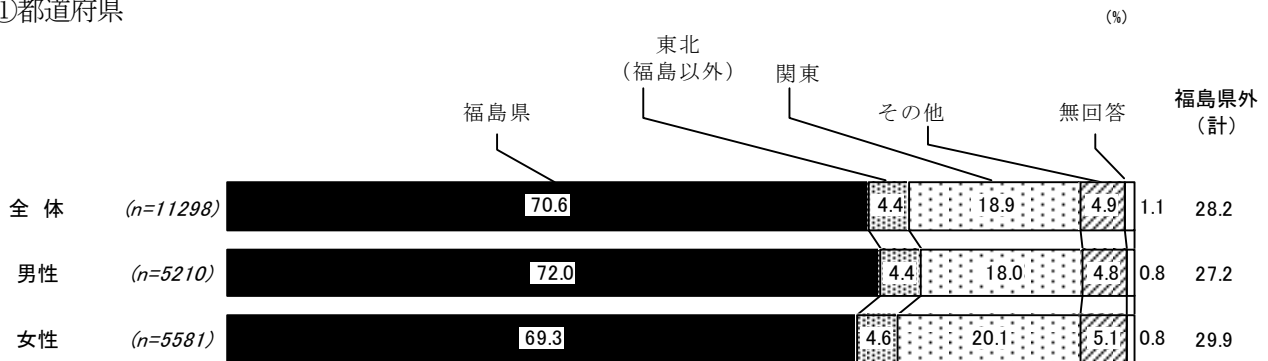
現在の避難先を都道府県別に見ると、「福島県」内(70.6%)が7割を占め、次いで「関東」が18.9%となっている。(図表3-1-1①)

さらに市町村を見ると、「福島市」が18.2%で最も多く、次いで「二本松市」(13.2%)、「いわき市」(10.5%)、「郡山市」(7.5%)の順となっている。(図表3-1-1②)

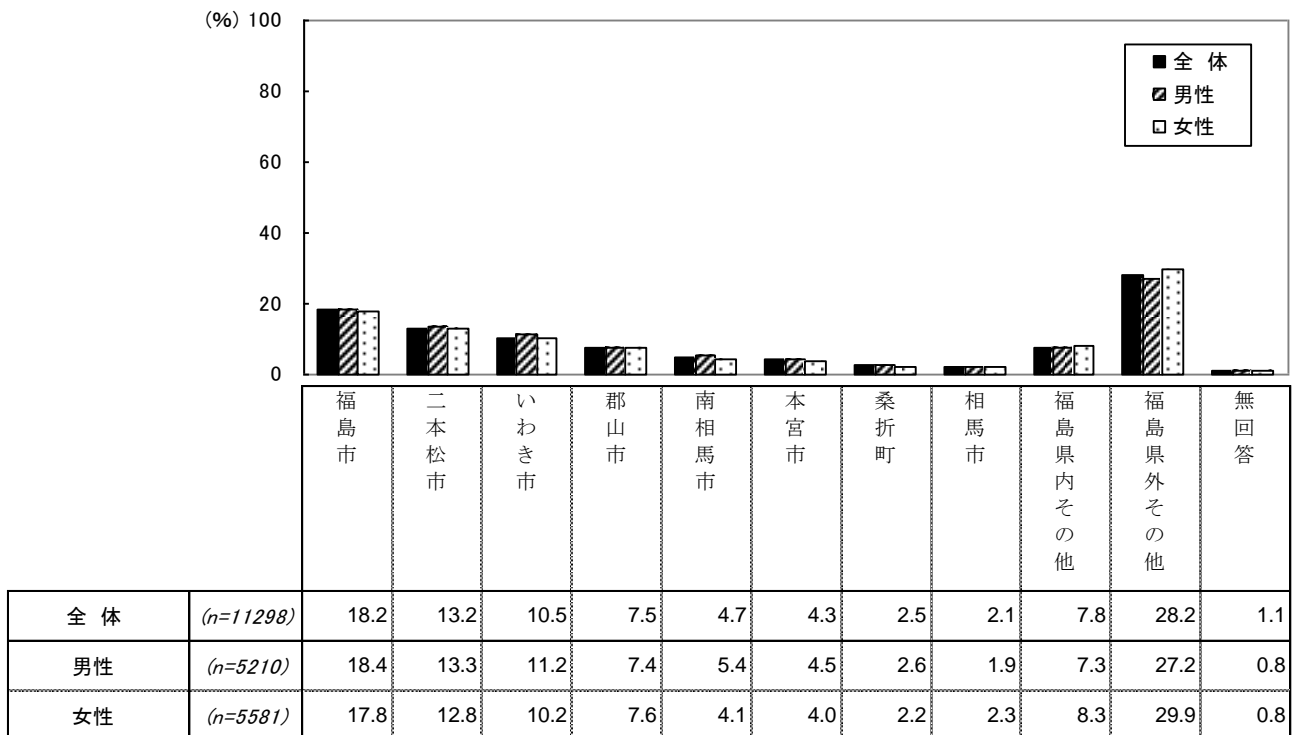
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-1-1①②)

図表3-1-1 現在避難している先の自治体(男女別)

①都道府県



②福島県内

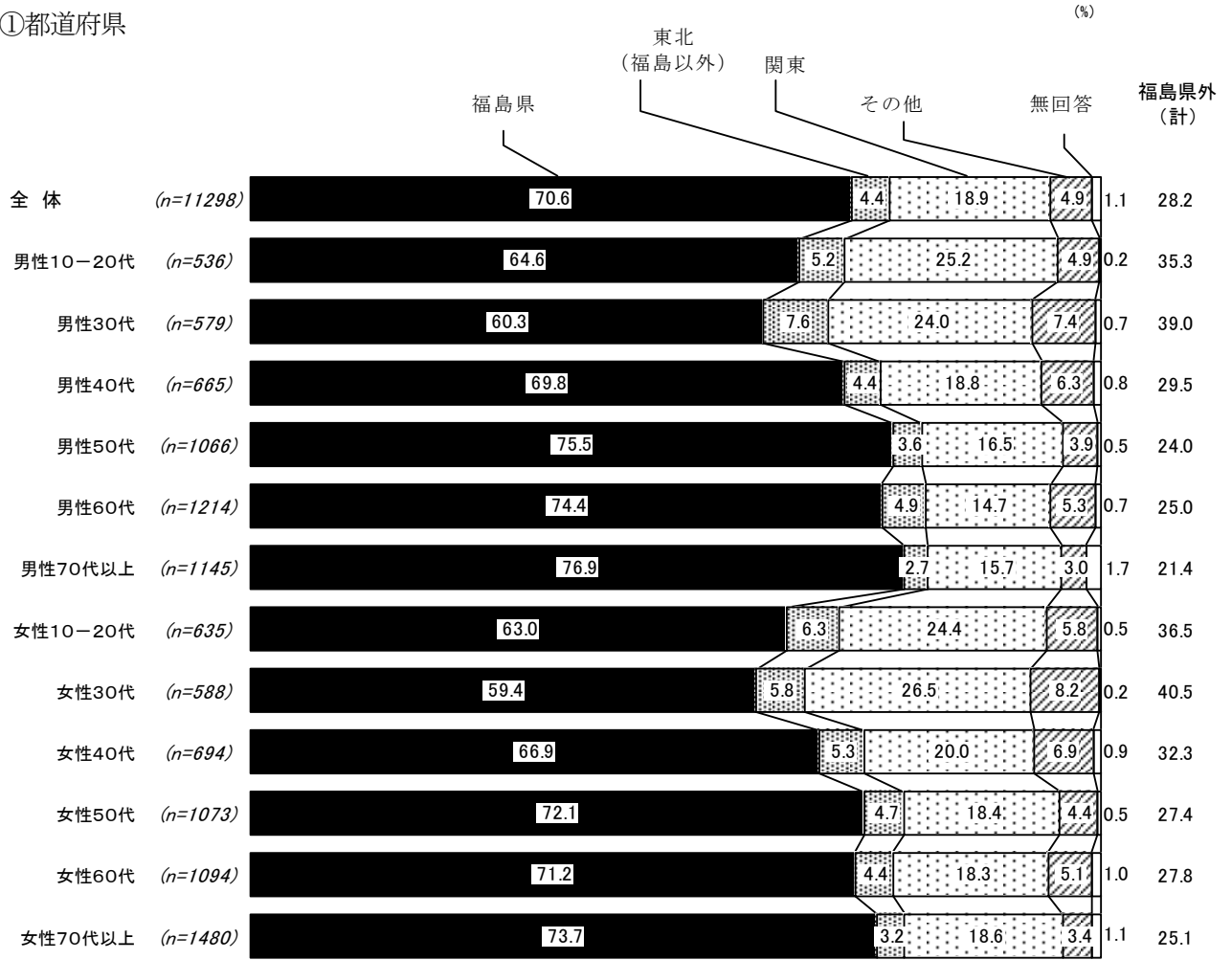


性・年代別に見ると、男女とも「福島県」内で避難生活を送る回答者が多数を占め、特に50代以上になると7割を上回る。一方、男女とも10～30代のはぼ4人に1人は、「関東」への避難者となっている。(図表3-1-2①)

市町村で見ると、女性の10～20代では、「いわき市」に避難している回答者が最も多いが、他の性・年代層では「福島市」への避難者が最も多くなっている。(図表3-1-2②)

図表 3-1-2 現在避難している先の自治体(性・年代別)

①都道府県



②福島県内

性別・年代	n	福島県内										無回答
		福島市	二本松市	いわき市	郡山市	南相馬市	本宮市	桑折町	相馬市	福島県内その他	福島県外その他	
全体	11298	18.2	13.2	10.5	7.5	4.7	4.3	2.5	2.1	7.8	28.2	1.1
男性10-20代	536	14.7	11.9	12.3	8.8	4.9	3.0	1.1	2.4	5.4	35.3	0.2
男性30代	579	14.3	6.0	12.6	7.3	4.7	3.1	0.9	1.4	10.0	39.0	0.7
男性40代	665	18.6	9.8	13.8	6.9	6.6	3.2	1.5	2.6	6.8	29.5	0.8
男性50代	1066	17.2	13.3	15.6	8.2	6.9	5.1	1.6	2.1	5.6	24.0	0.5
男性60代	1214	19.4	15.1	9.0	6.9	4.7	6.3	3.4	2.1	7.7	25.0	0.7
男性70代以上	1145	22.3	17.6	6.6	7.0	4.5	4.3	5.0	1.4	8.4	21.4	1.7
女性10-20代	635	12.8	10.1	14.3	9.0	3.3	2.5	1.1	3.1	6.8	36.5	0.5
女性30代	588	12.2	9.7	10.2	7.5	2.4	3.2	0.9	2.9	10.4	40.5	0.2
女性40代	694	18.2	11.4	12.0	7.1	3.9	2.3	0.7	3.0	8.4	32.3	0.9
女性50代	1073	17.0	11.8	13.0	9.1	5.9	4.7	1.0	2.1	7.5	27.4	0.5
女性60代	1094	20.1	12.8	7.5	7.0	4.7	5.0	3.5	1.7	8.9	27.8	1.0
女性70代以上	1480	20.9	16.7	7.5	6.6	3.6	4.6	3.9	1.8	8.1	25.1	1.1

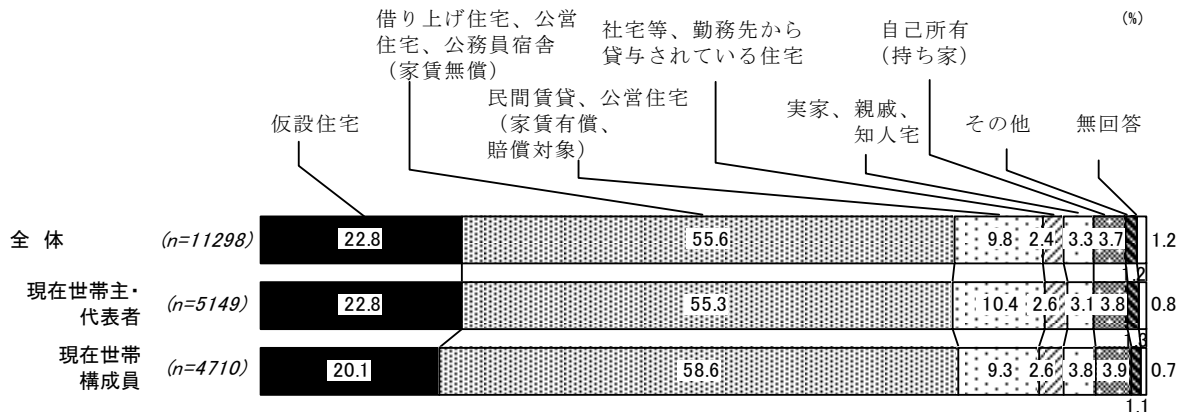
(2) 現在の住居種別

問4 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。(〇は1つ)
 (1)所有形態(〇は1つ)
 (2)住居の建て方(〇は1つ)

現在の住居形態としては、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舍(家賃無償)」(55.6%)が過半数を占めて最も多く、次いで「仮設住宅」が22.8%となっている。(図表 3-2-1)

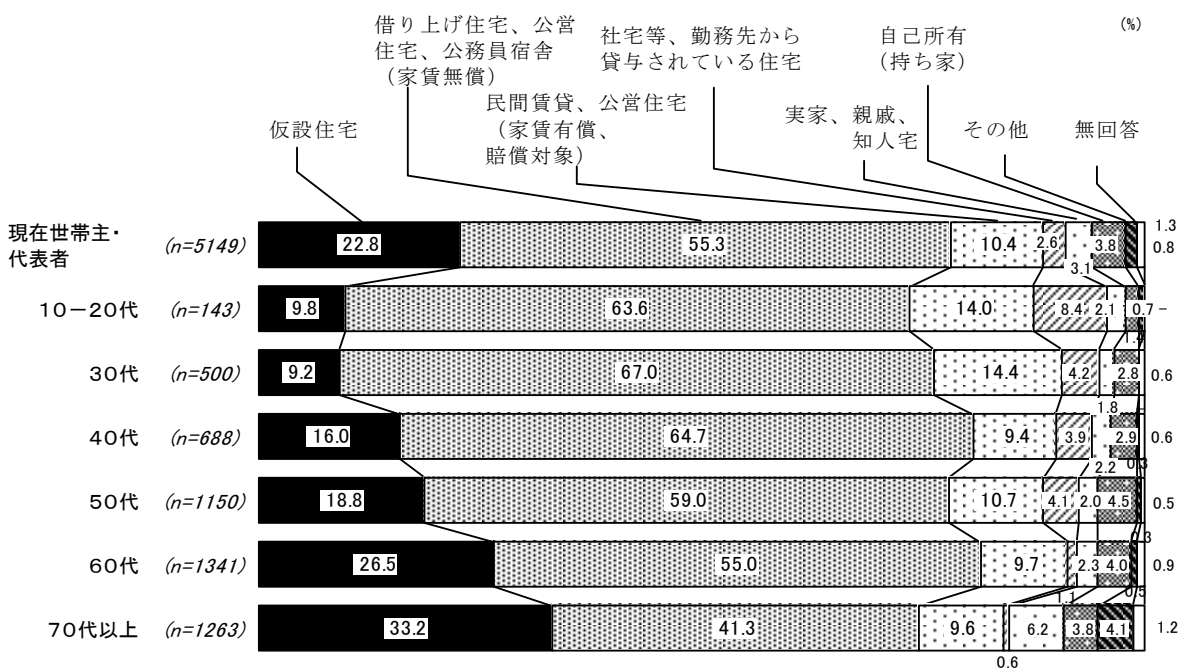
現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-2-1)

図表 3-2-1 現在の住居種別(現在の世帯での立場別)



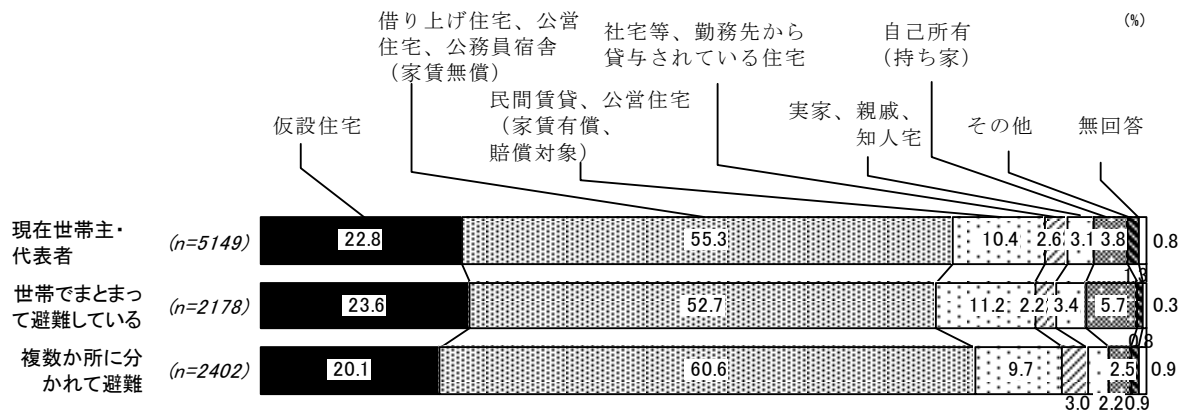
世帯主もしくは世帯の代表者(5,149人)の年代別に見ると、高年齢層の世帯主・代表者ほど「仮設住宅」居住が多く、70代以上(33.2%)では3割以上となっている。一方、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舍(家賃無償)」居住は、若年齢層の世帯主・代表者ほど多く入居している傾向があり、40代以下では6割以上を占めている。(図表 3-2-2)

図表 3-2-2 現在の住居種別(世帯主・代表者の年代別)



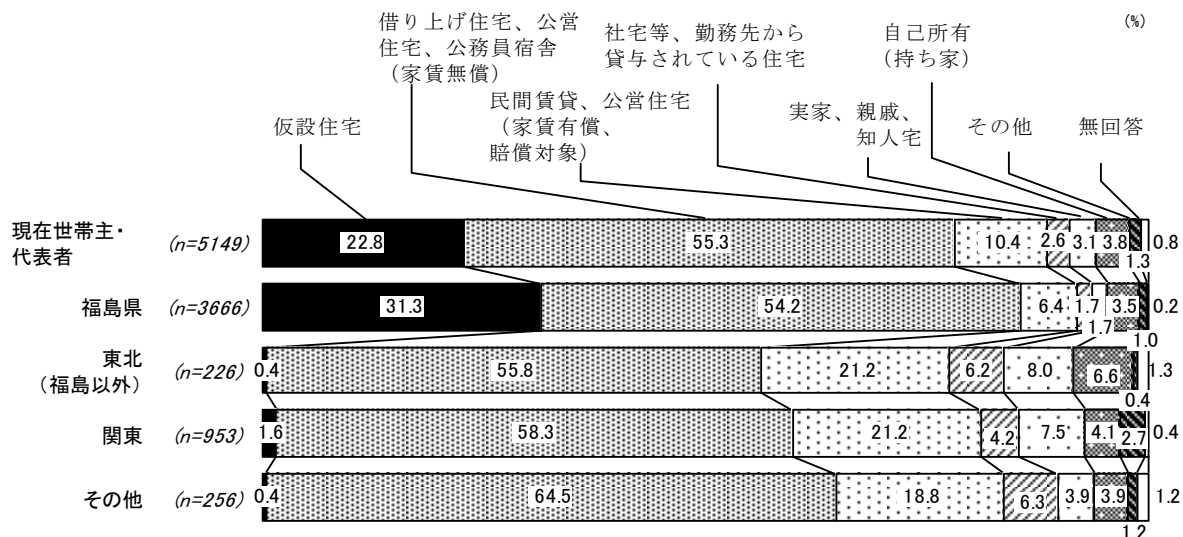
世帯の避難状況別に見ると、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舎(家賃無償)」居住は、分散世帯で 60.6%と、まとまって避難している世帯(52.7%)より多い。(図表 3-2-3)

図表 3-2-3 現在の住居種別(世帯の避難状況別)



世帯の現在の避難先別に見ると、いずれの避難先でも「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型」居住が最も多く、福島県内避難世帯では、次いで「仮設住宅」居住世帯が 31.3%となっている。福島県以外の東北地方に居住する避難世帯では、次いで「民間賃貸、公営住宅(家賃有償、賠償対象)」がともに 21.2%である。(図表 3-2-4)

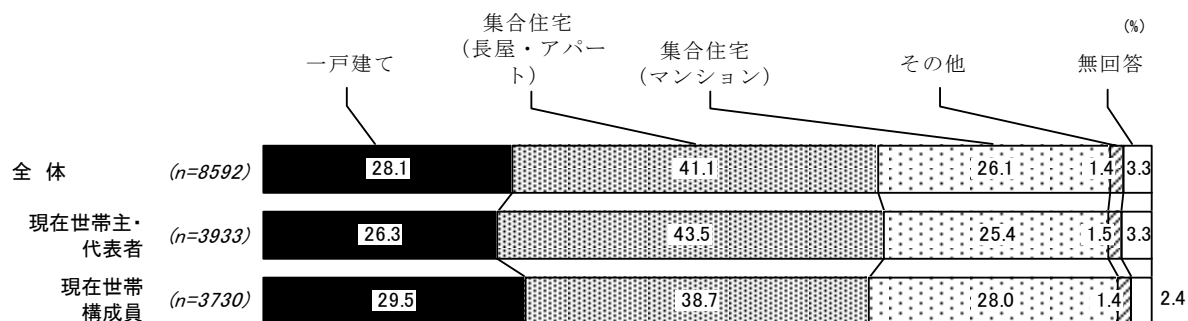
図表 3-2-4 現在の住居種別(世帯の現在の避難先別)



現在、仮設住宅以外に居住している人(8,592人)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、2階建て以下の「集合住宅(長屋、アパート)」が41.1%と最も多く、次いで「一戸建て」(28.1%)と、3階建て以上の「集合住宅(マンション)」(26.1%)がともに2割台となっている。(図表3-2-5)

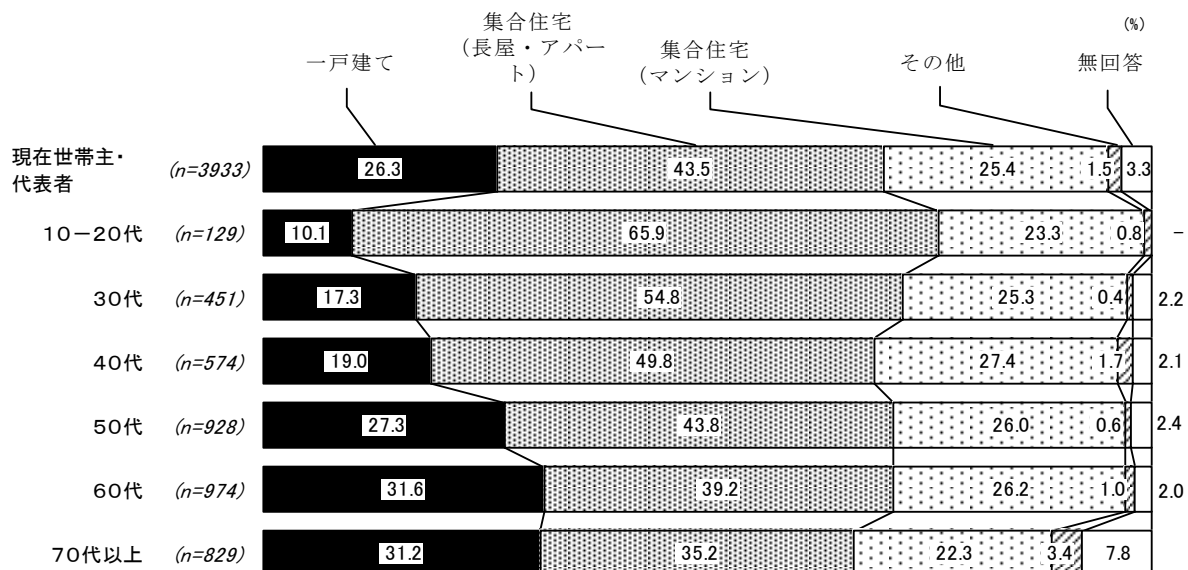
現在の世帯での立場別に見ると、「集合住宅(長屋、アパート)」入居者は、現在世帯主もしくは世帯の代表者の43.5%、世帯構成員では38.7%となっている。(図表3-2-5)

図表 3-2-5 現在の住宅の建て方(現在の世帯での立場別)



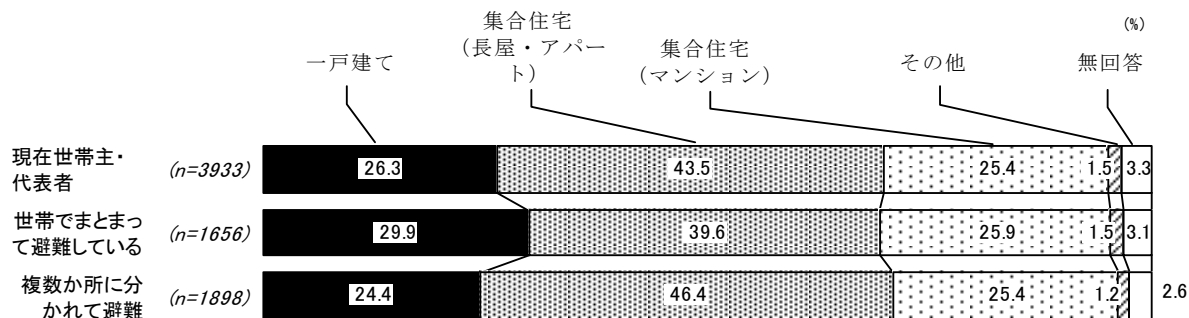
世帯主もしくは世帯の代表者(3,933人)の年代別に見ると、若年齢層の世帯主・代表者ほど「集合住宅(長屋、アパート)」入居世帯が多く、10~20代では65.9%の世帯が入居している。一方、「一戸建て」は、高年齢層の世帯主・代表者ほど多い傾向がある。(図表3-2-6)

図表 3-2-6 現在の住宅の建て方(世帯主・代表者の年代別)



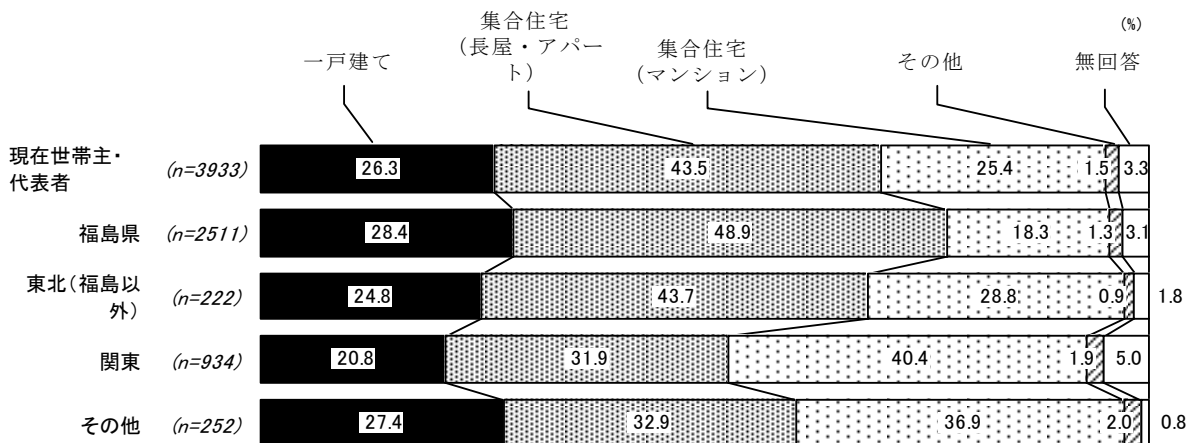
世帯の避難状況別に見ると、分散世帯は「集合住宅(長屋、アパート)」入居(46.4%)が半数近い。(図表 3-2-7)

図表 3-2-7 現在の住宅の建て方(世帯の避難状況別)



世帯の現在の避難先別に見ると、福島県以外の東北地方に居住する世帯では、「集合住宅(長屋、アパート)」入居世帯が最も多く、次いで福島県内居住世帯では「一戸建て」(28.4%)、福島県以外の東北地方に居住する世帯では「集合住宅(マンション)」(24.8%)に居住している世帯が、それぞれ多くなっている。一方、関東地方に避難している世帯では4割が「集合住宅(マンション)」(40.4%)に居住している。(図表 3-2-8)

図表 3-2-8 現在の住宅の建て方(世帯の現在の避難先別)



(3) 現在の職業

1) 現在の職業

問 5-1 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。(〇は1つ)

(1)職業(就業形態)

(2)業種

現在の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」(54.2%)が過半数を占め、「学生」(4.3%)を合わせると、6割近くが職に就いていない。有職者の職業は、「会社員(労務)」(11.8%)、「パート・アルバイト」(5.9%)に次いで、「自営業(休業中)」が5.7%となっている。(図表 3-3-1①)

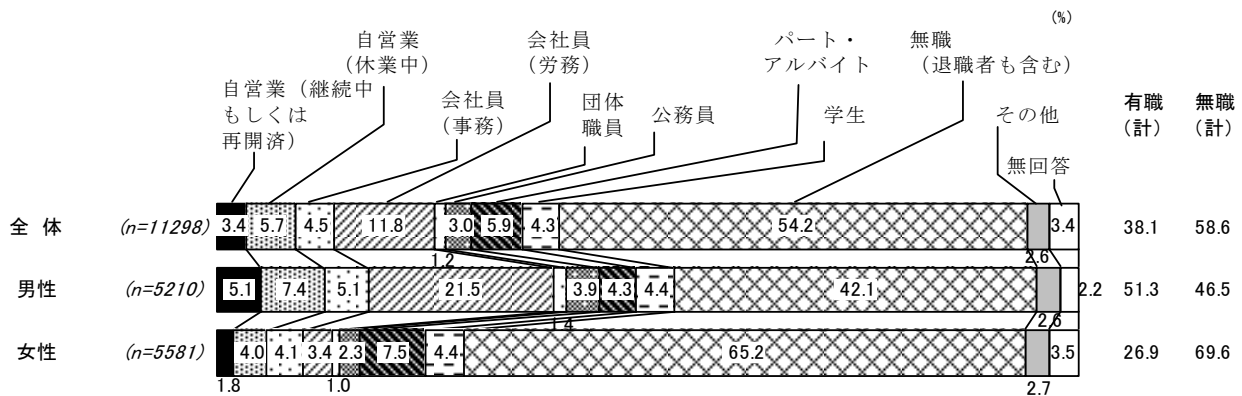
有職者(3,963人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」が25.1%で最も多く、次いで「建設業」(21.7%)、「製造業」(12.9%)などの順となっており、この3業種ではほぼ6割を占めている。(図表 3-3-1②)

男女別に職業を見ると、「会社員(労務)」(男性21.5%、女性3.4%)は女性より男性に多く、男女差が大きい。これに対して、「無職」は、女性で65.2%と、男性を20ポイント以上上回っている。(図表 3-3-1①)

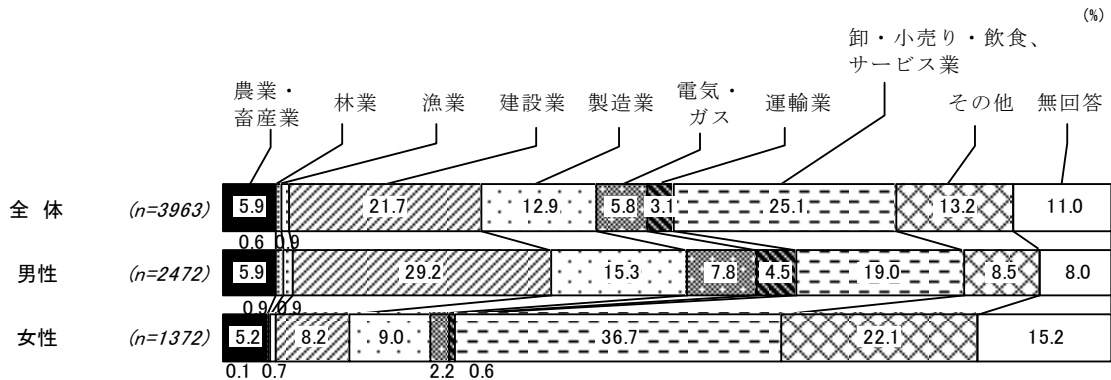
さらに業種を見ると、「建設業」(男性29.2%、女性8.2%)と「製造業」(同15.3%、9.0%)は女性より男性に、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同19.0%、36.7%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。(図表 3-3-1②)

図表 3-3-1 現在の職業(男女別)

①職業



②業種



性・年代別に職業を見ると、男性の30～40代では4割以上が「会社員(労務)」で、50代でも32.6%と、他の性・年代層より多くなっている。一方、女性は30～50代で4割前後が仕事に就いており、「パート・アルバイト」「会社員(事務)」「会社員(労務)」など就業形態は多様である。

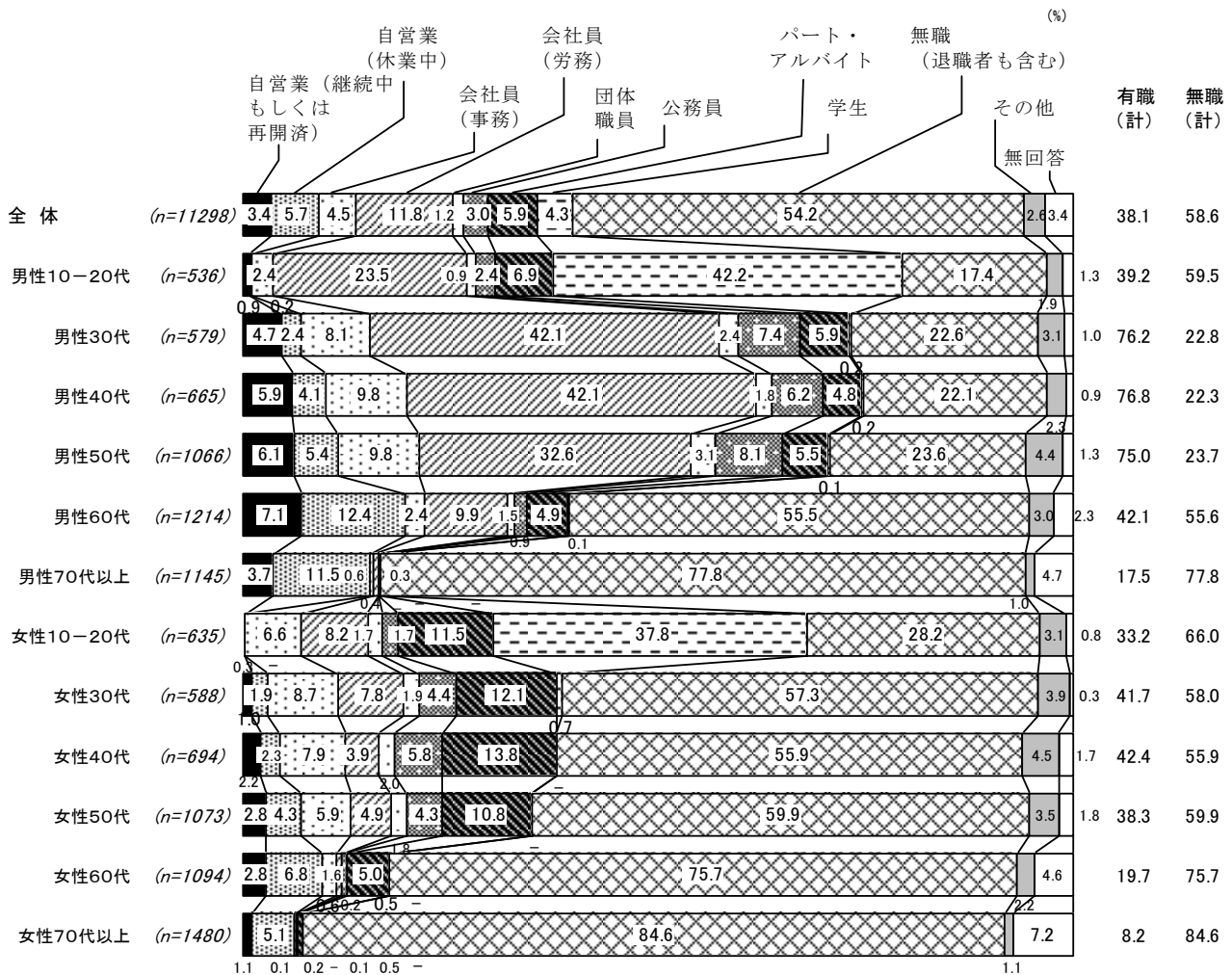
「無職」は、男性の70代以上、女性の60代以上の年齢層で7割を上回っている。(図表3-3-2①)

性・年代別に業種を見ると、「建設業」従事者は男性の60代で39.8%と、他の性・年代層より多くなっている。また、「製造業」は男性の若年齢層で多く、40代以下では2割台となっている。一方、女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」従事者が10～30代と60代で4割前後と、他の性・年代層より多くなっている。

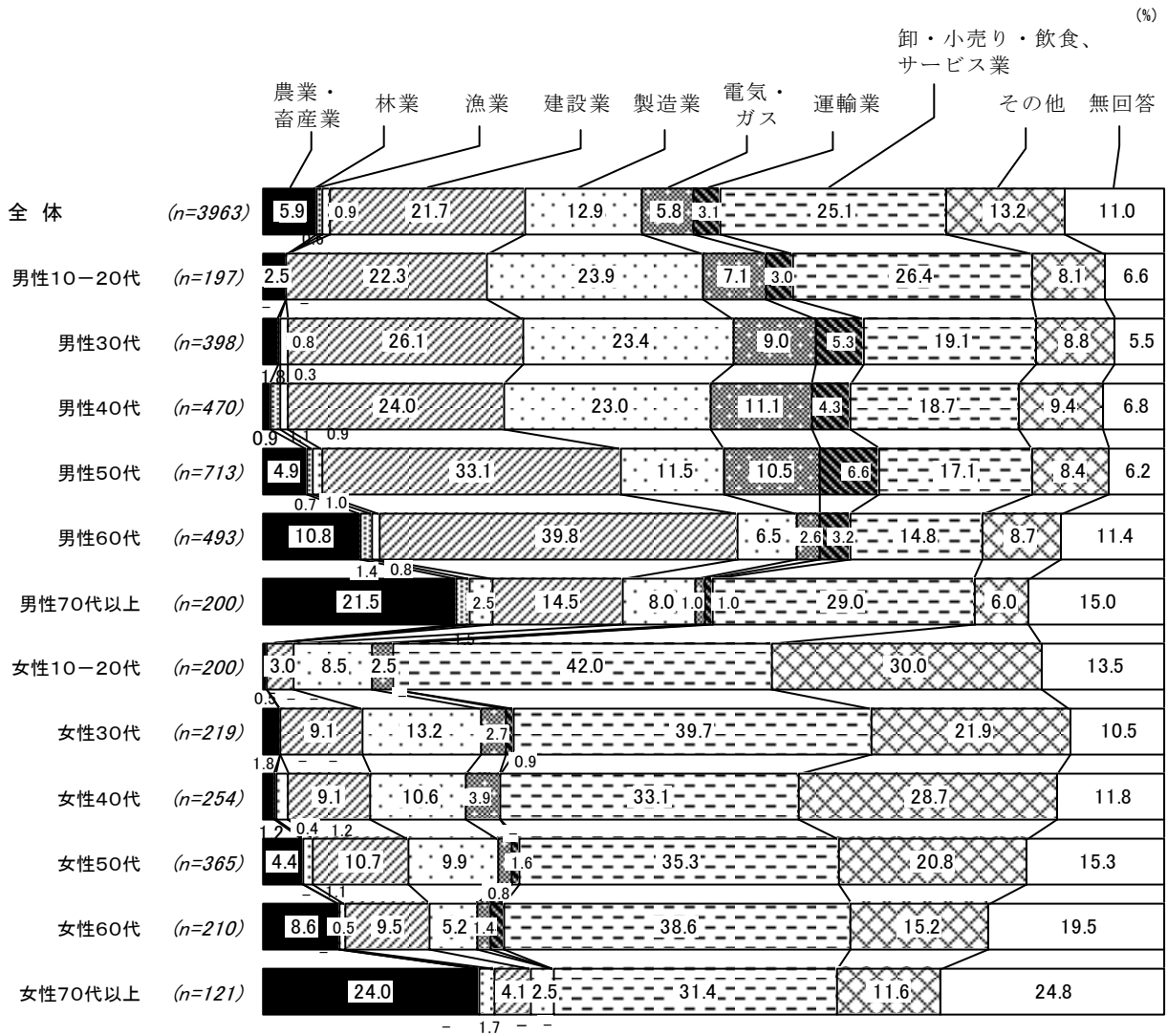
男女とも70代以上では「農・林・漁・畜産業」が2割を上回っている。(図表3-3-2②)

図表3-3-2 現在の職業(性・年代別)

①職業



②業種

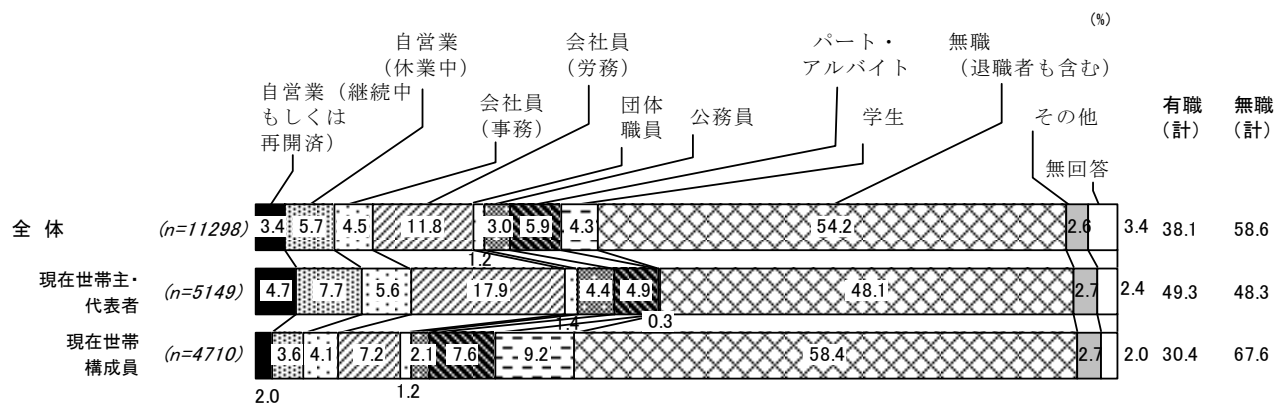


現在の世帯での立場別に職業を見ると、現在世帯主もしくは世帯の代表者は半数近くが有職で、「会社員(労務)」(17.9%)が最も多くなっている。一方、世帯主以外の世帯構成員で仕事に就いているのは3割で、「パート・アルバイト」(7.6%)、「会社員(労務)」(7.2%)など、いずれも1割に満たない。(図表3-3-3①)

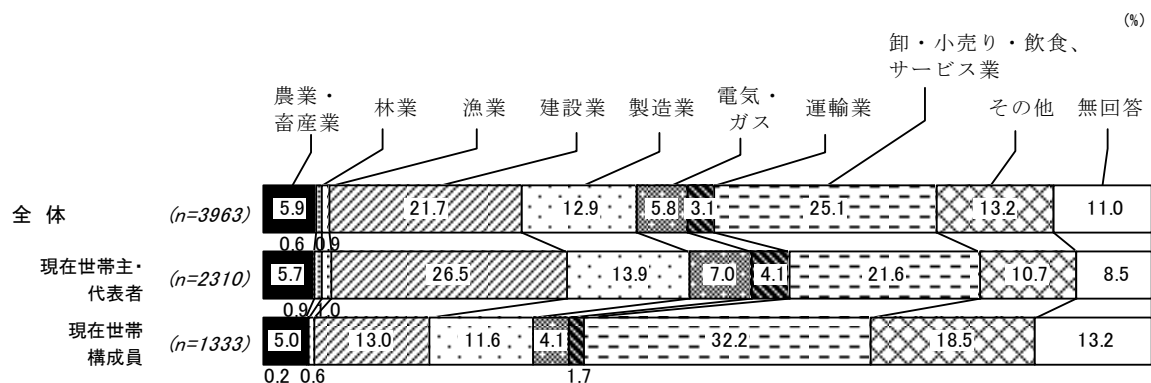
さらに業種をみると、現在世帯主もしくは世帯の代表者では「建設業」(26.5%)と「卸・小売り・飲食、サービス業」(21.6%)がそれぞれ2割を上回り、この2つの業種で半数近くを占めているが、現在構成員では「卸・小売り・飲食、サービス業」が32.2%で、「建設業」(13.0%)と「製造業」(11.6%)はともに1割台となっている。(図表3-3-3②)

図表 3-3-3 現在の職業(現在の世帯での立場別)

①職業



②業種



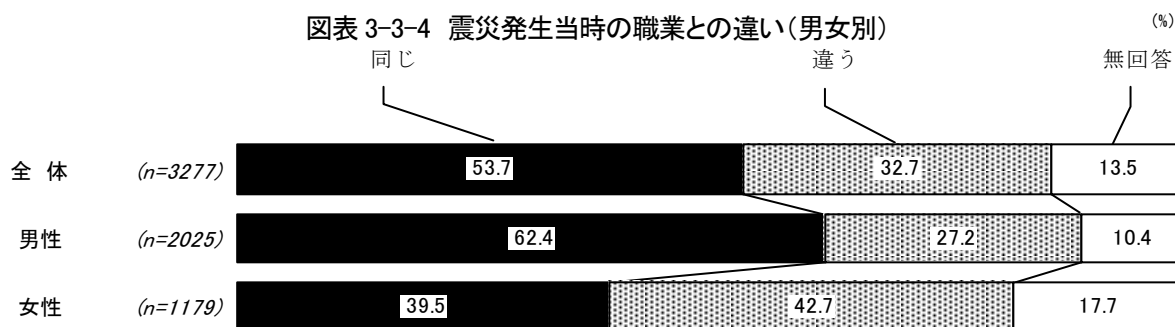
2) 震災発生当時の職業との違いと変わった理由

【自営業以外の仕事についている方にうかがいます。】

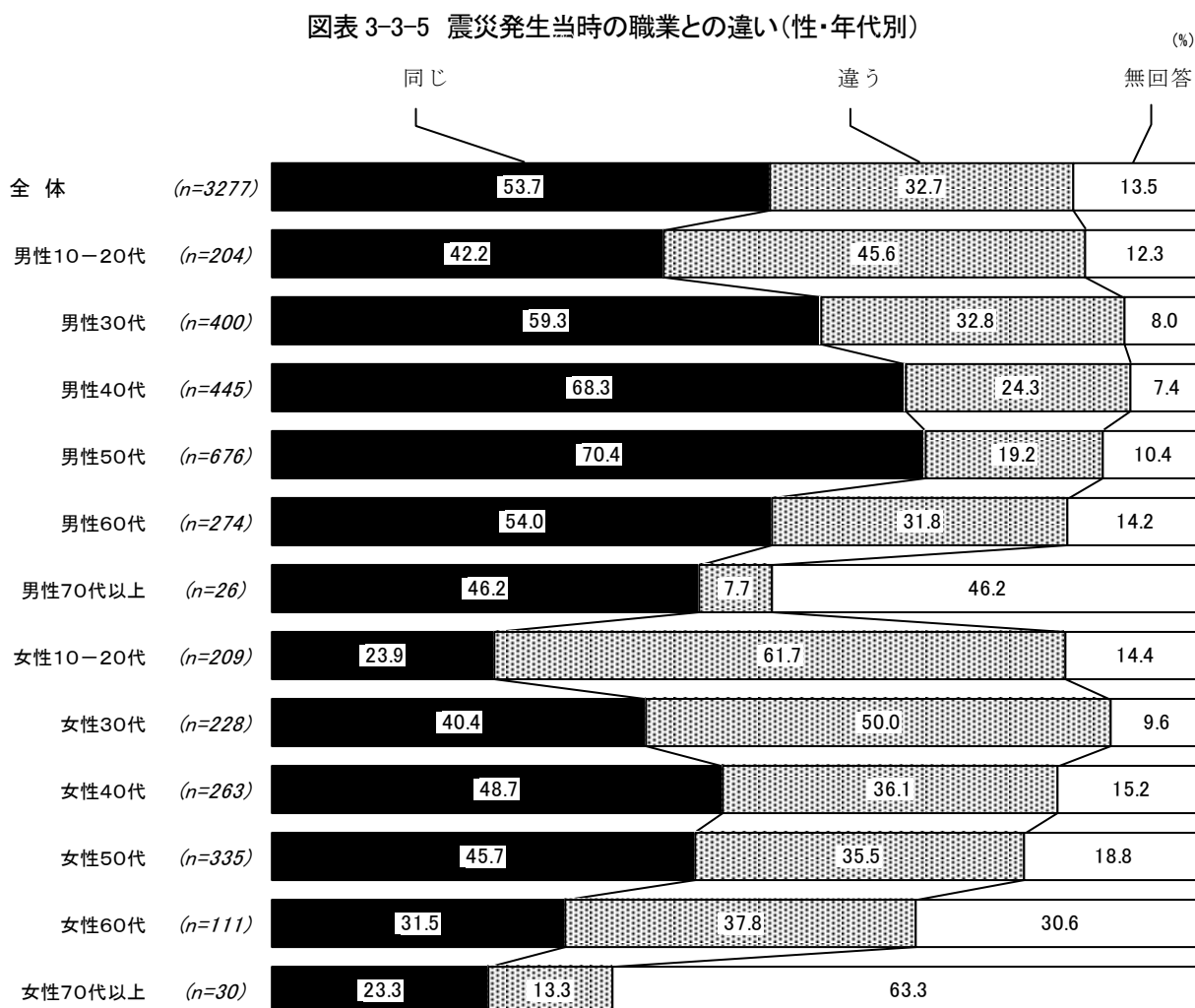
問 5-2 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

自営業以外の有職者(3,277人)に、現在の職業が震災発生当時の職業と同じかどうかを聞いたところ、過半数は、現在の職業が震災発生当時と「同じ」(53.7%)であると回答している。(図表 3-3-4)

男女別に見ると、男性の62.4%は、震災発生当時と「同じ」職業に就いていると回答しているが、女性では39.5%で、女性の4割以上は、当時と「違う」職業(42.7%)に就いている。(図表 3-3-4)

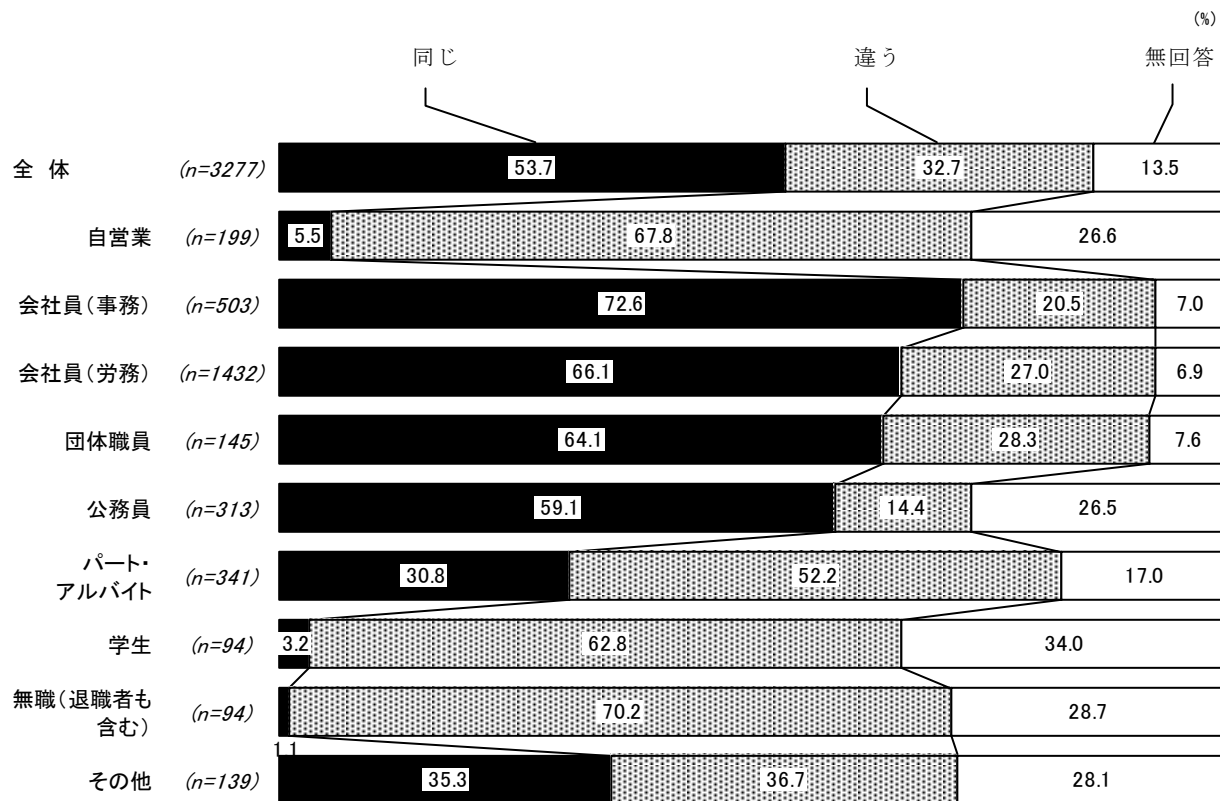


性・年代別に見ると、男性では40～50代で震災発生当時と「同じ」職業に就いている人がほぼ7割と、他の性・年代層より多くなっている。(図表 3-3-5)



震災発生当時の職業別に見ると、当時有職者のうち自営業もしくはパート・アルバイトの回答者では、震災発生当時と現在の職業が「違う」という人が5割以上を占めている。(図表 3-3-6)

図表 3-3-6 震災発生当時の職業との違い(震災発生当時の職業別)



3) 求職状況(無職者)

【問5-1(1)職業で、「2 自営業(休業中)」「9 無職(退職者も含む)」と回答した方にかがいます。それ以外の方は問6-1へお進みください。】

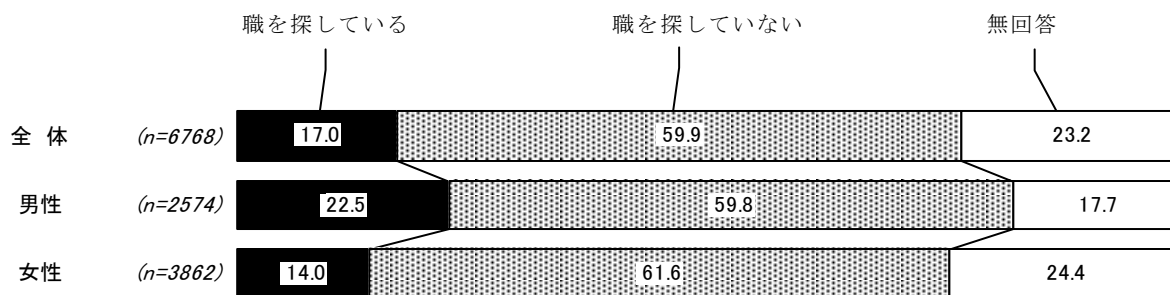
問5-3 あなたは現在、職を探していますか。自営業の方は、事業再開までに、一時的に別の職を探しているかどうかを教えてください。(〇は1つ)

現在無職の回答者(6,768人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は17.0%で、6割は「職を探していない」(59.9%)と回答している。(図表3-3-7)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-3-7)

図表3-3-7 求職状況(男女別)

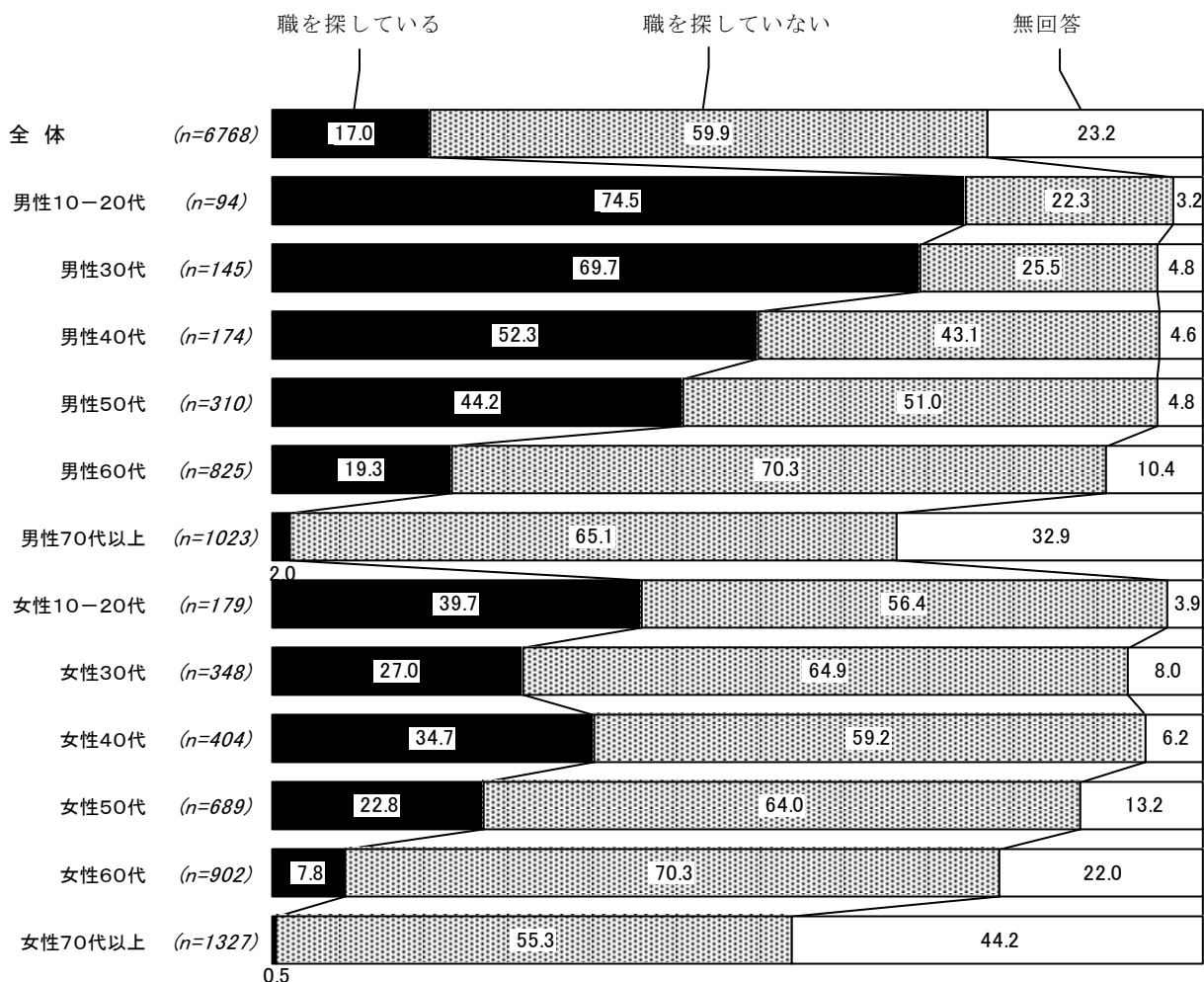
(%)



性・年代別に見ると、男女とも若年齢層ほど「職を探している」と回答する傾向があり、特に男性の10~30代では、ほぼ7割が求職している。(図表3-3-8)

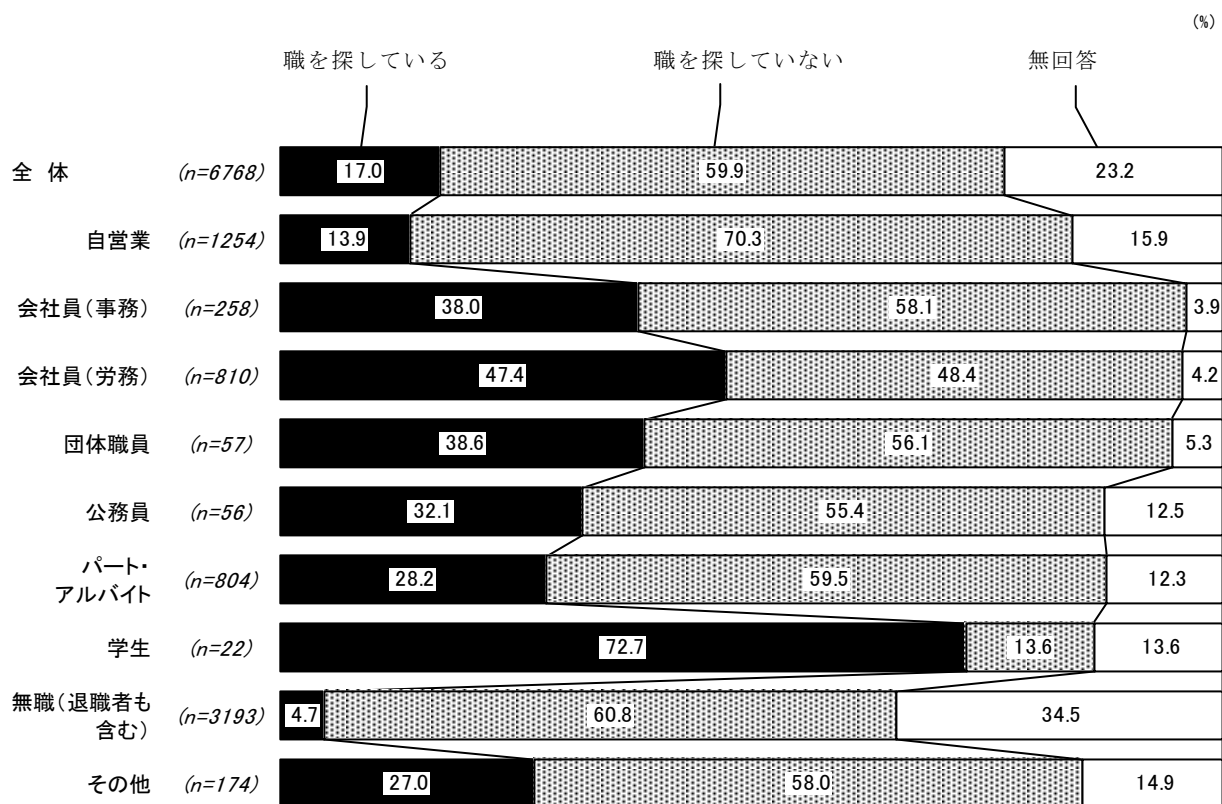
図表3-3-8 求職状況(性・年代別)

(%)



震災発生当時の職業別に見ると、当時会社員(労務)だった回答者の半数近くは「職を探している」(47.4%)と回答している。これに対して、当時自営業者で「職を探している」という回答者は13.9%にとどまり、7割が「職を探していない」(70.3%)と回答している。(図表 3-3-9)

図表 3-3-9 求職状況(震災発生当時の職業別)



【問5-3で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

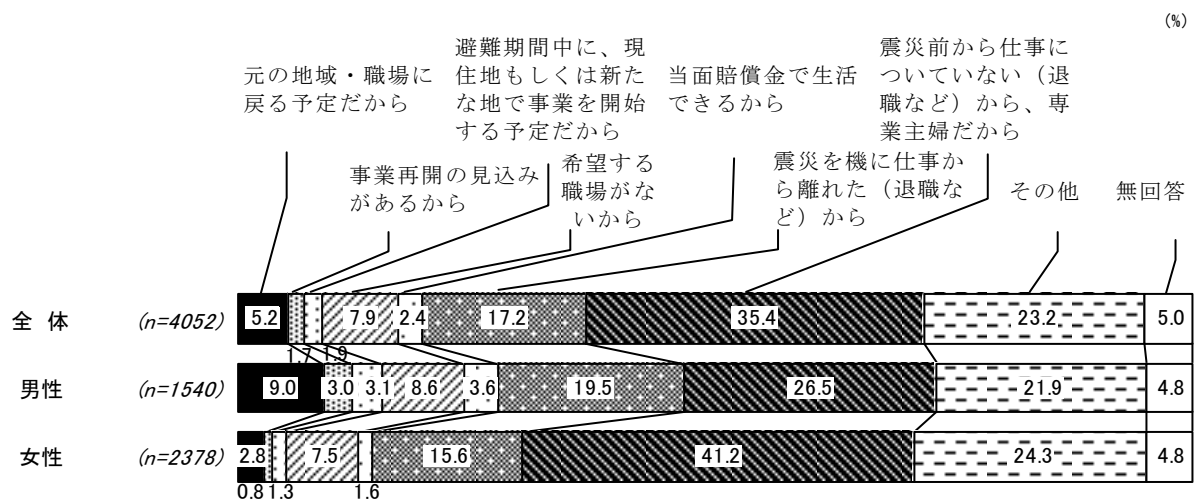
問5-4 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(〇は1つ)

職を探していない休業者・無職者(4,052人)の理由としては、「震災前から仕事についていない(退職など)から、専業主婦だから」という回答者が35.4%で最も多く、次いで「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」(17.2%)となっている。(図表3-3-10)

「その他」という回答者が23.2%(939人)いるが、内容としては「高齢のため」(373人)、「健康上の理由」(167人)、「育児のため」(101人)などが主なものである。

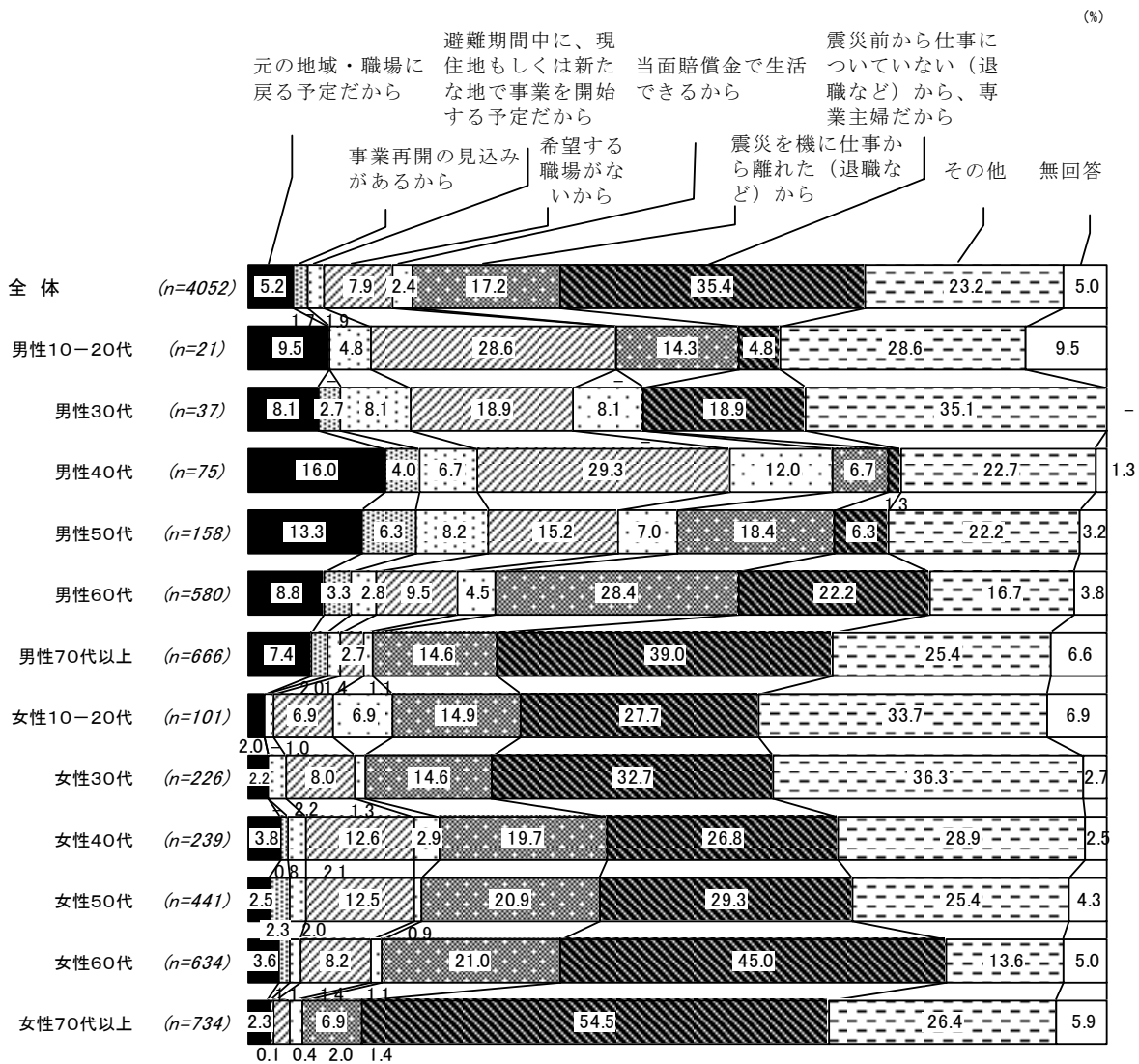
男女別に見ると、「震災前から仕事についていない(退職など)から、専業主婦だから」(男性26.5%、女性41.2%)という回答者は、女性で4割を上回り、男女差が大きくなっている。(図表3-3-10)

図表 3-3-10 職を探していない理由(男女別)



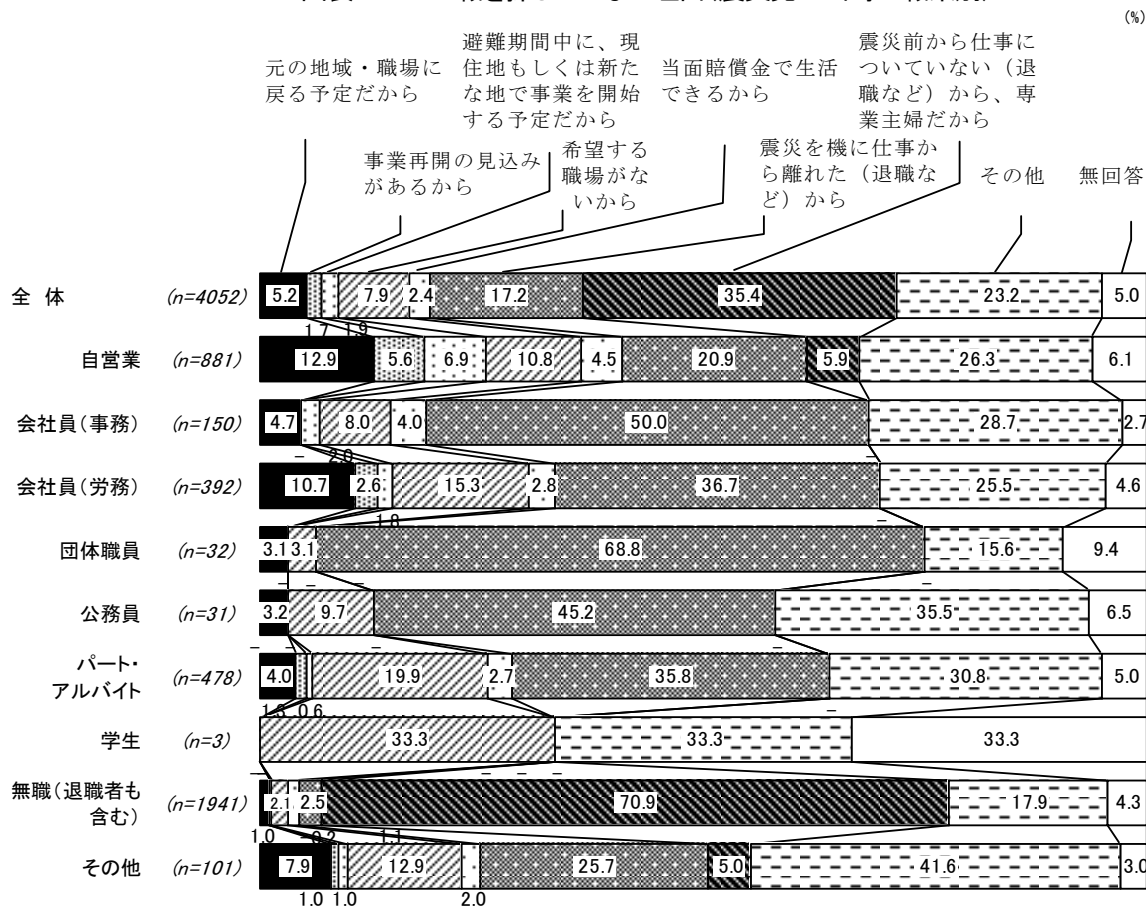
性・年代別に見ると、男性の40代では、「希望する職場がないから」という回答者が29.3%で最も多くなっている。また、男性の40～50代で、「元の地域・職場に戻る予定だから」という回答者が他の性・年齢層より多くなっている。(図表3-3-11)

図表 3-3-11 職を探していない理由(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時有職者では「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」という回答者が最も多くなっている。(図表 3-3-12)

図表 3-3-12 職を探していない理由(震災発生当時の職業別)



震災発生当時有職で、現在求職していない回答者(2,065人)について、職を探していない理由を見ると、「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」という回答者が30.8%で最も多く、次いで「希望する職場がないから」(13.5%)、「元の地域・職場に戻る予定だから」(9.3%)の順となっている。(図表 3-3-13)

男女別に見ると、「元の地域・職場に戻る予定だから」(男性13.7%、女性5.7%)という回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 3-3-13)

図表 3-3-13 職を探していない理由(震災発生当時有職者の男女別)

